

**自然保護の取り組み**

John J. Audubon(1785-1851) →  
鳥類の細密な生態画集で知られ、  
世界最大の鳥類保護団体に



**1) 自然保護運動の勃興**

- ・アメリカ人の自然観 ... Anglo Saxon系民族はもともと**自然志向**のメンタリティを持ち、それが**フロンティア進出**の精神にもなった。この場合の「自然」とは、**客観的に観察する対象としての自然**。
- ⇒「**畏怖**」の対象としての**自然**
- ・また、広大な大陸**奥地**には人間を超越したような自然＝「**大自然**」があって、東部の知識人たちも、土地の**歴史性が少ない**分、アメリカの**シンボルの「よりどころ**」を、この「**大自然**」に求める人々が開拓当初から存在した。
- ⇒歴史性が弱い分、「**自然地理**」的現象にその地域性のよりどころを求めた。

- ・1800年代の急激な開拓に対して、**自然保護**を訴える**自然派の作家・思想家**(エマーソン、ソロー)、**画家**(オーデュボン、モラン)が活躍。
- ・1832、**自然画家**キャトリンが「**野生のままを政策的に保護する国民の公園**」制度を訴え。

Thomas Moranの西部の自然画





**国立公園の誕生**

岡島成行(1990)「アメリカの環境保護運動」岩波新書

- ・1861年、Montanaで**金**が発見され、**山師**が殺到。周囲の「**大自然**」地帯も**開発危機**に。
- ・当時、**Yellowstone**火山の「**大自然**」は伝聞で知られており、**鉄道会社**が**観光客誘致**をまくらんで**鉄道延伸**を画策する動きも。
- ⇒Pennsylvania大学の**地理学者**Ferdinand Hydenが、**Yellowstone**に初の**科学調査探検**を敢行。これには自然画家Moranや写真家も参加。
- ・帰還後、その「**大自然**」の報告会や作品を発表し、センセーションを巻き起こす。
- ⇒1872年3月、**Yellowstone**が初の合衆国**国立公園**に。






- ・その手本とされたのは、**Yosemite**峡谷の**州立公園化**。
- ・ここは、**Sacramento**から近い場所にある景勝地で、早くから多くの自然愛好者たちが探勝に訪れていた。1864年、彼らの中の運動家たちの求めて、California州の**State Park**に指定。

★**John Muir** (1838-1914) →  
**Yosemite**を含む**Sierra Nevada**の自然に魅せられ、多彩な自然研究や自然破壊に警鐘を鳴らす論文を発表、国立公園化運動を推進。「**国立公園の父**」。1892、**Sierra Club**を設立



**自然保護運動の活発化**

- ・こうした中で、各地で**大自然**を守る運動が増加。
- ・1876年、**Appalachia**山岳会を皮切りに、各地に山岳会が誕生。公有地のうち自然的景勝地を、誰もが探勝できる「**公立公園**」にする**運動**も活発化
- ・1890年、11回国勢調査の結果、連邦政府が「**frontier**消滅」を宣言 ⇒ 全国民が**国土の有限性**に気付く
- ⇒「**開発すべき自然**」から、「**守るべき自然**」へと、国土の**自然観**が大転換

・より包括的な**自然保護運動**へ

- ・1892、**Sierra Club** ... Yosemite周辺の自然散策同好会。リーダーJohn Muir
- ・1908-13、Hetch Hetchy**ダム**論争 ... **Sierra Club**は**政治運動体**として力を発揮。この論争は San Franciscoの**水不足**解消のため、保護派は敗れる。しかしその後は全米の公園内でダムは建設されていない。
- ・1905、**National Audubon Society** ... **反狩猟**の鳥類保護団体、野鳥の**sanctuary**を提唱

※日本でも、1894志賀重昂「日本風景論」、1905「日本山岳会」結成(リーダー小島水鳥らアメリカ視察)

表2 主要環境保護団体一覧

団体名	会員(万人)
National Wildlife Federation	580
Greenpeace-U. S. A.	85
World Wildlife Fund-US	67
National Audubon Society	55
The Nature Conservancy	55
Sierra Club	50
The Wilderness Society	30
National Trust for Historic Preservation	22.5
Natural Resources Defense Council	12.5
Environmental Defense Fund	10

(1990 Conservation Directory より)

- ・1960年代の**公民権運動**期を経て、多くの自然保護団体が誕生 ... **Greenpeace**など

### 自然保護 から 地球環境保護へ




- 1960年代,各地で環境汚染が進行
  - ... 都市部で:LAの光化学smog,工業地帯で:Appalachiaの酸性雨被害,五大湖の水質汚濁,農業地帯:土壌浸食,農業汚染,地下水汚染 ...
  - ⇒1962, Rachel Carson "Silent Spring"出版. 化学農業の危険性に警鐘。
- 1969, UNESCO環境会議で "Earth Day"(地球の日)を提案 ⇒ San Francisco市長が翌年3.21をEarth Dayとすることを宣言。Wisconsin州選出上院議員が,4.22に全米で集会開催を企画。
  - ⇒1970. 4.22の大決起 ... 各環境団体が連合して,政府に**環境保護**を主要政策に位置づけることを求めて, 2,000の自治体,10,000の学校,1,500の大学で集会を開催した後, Washington D.C.に向けて**大行進** ⇒「Earth Day」が世界に知られることに。
- これを契機に,「ecology」の言葉とともに,環境保護立法が世界各国に広がる

- 1971, Greenpeace 誕生。核実験阻止団体,実験海域に乗り込んで実力阻止。
- 1972,ローマクラブ『成長の限界』発表, 国連**環境人間会議**(Stockholm) ... 人間環境宣言
- 各地に環境研究団体,大学にも環境学科・コースの設置が急増。
- 1992,国連**環境開発会議**(Rio de Janeiro) ... 気候変動枠組み条約,生物多様性条約etc.

※日本でも ... 1969石牟礼道子『苦海浄土-わが水俣』, 1971年7月,「**環境庁**」設置(初代長官・大石武一), 1975有吉佐和子『複合汚染』

### 大量消費と資源浪費の構造

- 大量生産・大量消費の大衆社会は, 1920年代のアメリカでいち早く成立
- 広い生活空間,広大な国土,そして個人主義に合致した「自動車文化」
- それを支えた**電気と石油**
- 国内の豊富な食料と鉱産資源
- ⇒文化と身体の根底に染み付いた「**浪費観念**」を欠いた**生活意識**
- 資源節約を**考慮しない生活設備**
- アメリカでは「洗濯物を干す」という習慣がない,洗濯したら必ず**乾燥機**を使う。
- ハンカチを持つ習慣のないアメリカのトイレには,使い捨ての手拭き紙がある,最近では送風乾燥機に変わっているが,**環境負荷**を考えるとほめられたものではない。
- ... **日本**,そして後発途上国も,その「アメリカ先進モデル」を追求。

排出割合 **28.7%**

二酸化炭素排出量に占める主要国の排出割合と各国一人当たりの排出量の比較(2013年)  
出典: EDCM/エネルギー - 経済統計要覧2016年版  
[http://www.jccca.org/chart/chart03\\_02.html](http://www.jccca.org/chart/chart03_02.html)


国	排出割合 (%)
中国	28.7%
アメリカ	15.7%
インド	5.8%
ロシア	5.0%
日本	9.7%
ドイツ	9.2%
アフリカ	3.4%
一人当たりの排出量 (t)	1.0%

・LA住宅地のゴミ箱。大人1人入る大きさ。

・緑:植物,青:リサイクル資源,黒:その他。

・しかし定義が不明確で,守らなくても文句は言われない。

・週1回収。ゴミ箱が7・8個並ぶ家も。



### 農業における保全対応 ... 「持続的農法」への転換




- 土壌浸食対策**
  - ... 等高線耕作,放牧規制,防風林,切株を大きめに残す刈り取り
- 1985農業法
- 土壌保全策を義務付け,傾斜地を中心に10%休耕補償の**減反政策**。
- 河川沿岸農地の**湿地**への復原。
- LISA**農法の推進(Low Input Sustainable Agriculture)
  - ... 作付体系見直し,伝統的なOrganic農業,耕種・畜産**混合農業**の再評価

★しかし,アメリカの農業は国際的市場競争の中にあり,経済効率を追求する農民たちに容易に浸透せず。

- ・逆に,高収量の「**遺伝子組換え**」品種が急速に普及。
- ⇒大規模農業の**構造的な問題** ... 大規模機械化は労働生産性の向上を生んだが,**農地の集約的な管理**は大規模ゆえに無理
- ⇒ **環境負荷型**の農法の転換は容易でない。
- ・加えて,農産物価格は,常に不安定な**国際競争**の中にある。
- ・畜産も,肉の高品質化を迫り,大量の食用穀物が家畜用に向けられる構造がある。
- ⇒耕種と畜産の**専門分化**が進みがちで,環境にやさしい**混合農業**の**分解**がなかなか止められない状況。